

研究室のぞいてみた。

BY 農学部自治会

農学研究科応用生物科学専攻海洋

環境微生物分野 中川 聡 准教授

研究について

—現在進んでいる研究はどのようなものですか。

そうですね…僕自身は今まで深海の熱水活動域という非常に変わった生態系の見られる環境で、特に微生物といろいろな生物がどのような共生関係を築いているか、といった、どちらかというとなり日常環境を研究していたのですが、それがなぜかだんだんと日常生活に関連するような研究に発展してきている、というところなんです。特に僕が今興味をもって調べているのは、僕らの胃に感染してくるピロリ菌、人類に蔓延している病原菌が、どうやら深海からやってくるぞ、ということですね。何億年という非常に長い時

間をかけて、もともと深海に住んでいた人間に害のない菌が、なぜか人の病原菌になっているということが、ゲノム配列などを調べていくことで分かってきたんです。その進化の道筋もだんだん見えてきていて、そこが最近の研究のすごくいい感じのところなんです(笑)。非常に基礎的な、別世界の生態系を調べているつもりだったのが、次第にピロリ菌という我々の身近な、重要な病原菌の、進化や誕生過程がわかるようなところまで研究が発展してきて、しかもそれをうまく利用すれば、その病原菌を撲滅できるのではないかと



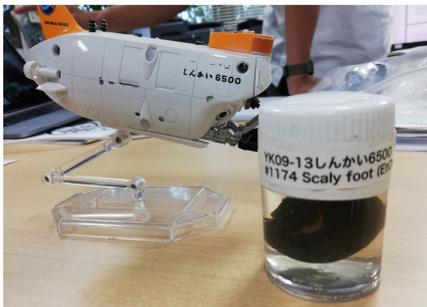
プロフィール

京都大学農学部にて1996年入学。2000年に卒業後、農学研究科応用生物科学専攻に進み、2005年修了。独立行政法人海洋研究開発機構 極限環境生物圏研究センター研究員を経て、2009年北海道大学大学院水産科学研究院准教授、2014年京都大学大学院農学研究科准教授、現在に至る。

いうところにまでつながりつつ
あるので、そこに今一番力を入
れています。

—お話を聞く限り、とても楽しそうですが、研
究は難しそうなイメージもあります。

研究は非常に楽しいですよ。難しいかもしれない
ですが、僕が行っているフィールドワークが入った
研究というのは、本当に子供が虫網をもって走り回
っているのとほとんど変わらなくて、例えば僕らだ
と潜水艇によって深海に行つて生態系を見るわけ
ですね。そうすると、うおお、何じゃこりゃああ！！
みたいな生態系があるわけです。そうすると、そこ



▲潜水艇・しんかい 6500(模型)と深
海の生物・スケーリーフット(実物)。



▲先生のお部屋で見つけたピ
ロリ菌のぬいぐるみ。最近のお
気に入りの微生物だそう。

で起こっていることを調べたくなるわけですね。そ
れをやっているだけなんです(笑)。子供が虫網もっ
て、変な蝶捕まえてこれなんや！とかやっているの
と同じような感じですね。だから研究を非常に難し
く、かっこよくアピールすることもできるのかもしれ
ませんが、根底にあるのは、自然に対する尊敬や
憧れからモチベーションを得て、もっと知りたいと
か、どうなっているんだろうとか、見てるだけでワ
クワクワするとかそういう気持ちで、それを発展させ
ていっているだけという言い方もできると思いま
す。



仕事について

—普段されている研究やお仕事はどのような感
じですか。

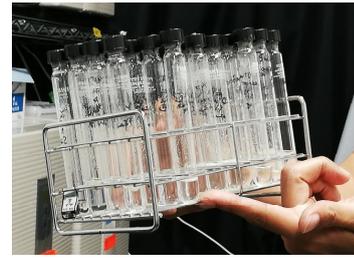
研究の方は、日々の細かい実験を研究室の学生さ
んに進めてもらって、ミーティングをして進捗を確
認しつつ、僕がもっと大局的な部分を見ていくとい

った感じです。あとは僕らにとって一番大きなミッ
ションに、お金を取ってこないといけないというも
のもあるので(笑)、予算を申請しては報告書を書いて

…というのも、日々の主な仕事です。その合間に船に乗ったり、漁港に行ったりしてサンプリングをするといったフィールドワークや、学会や授業、学生実験が入ってくる、といったところです。

—予算申請も主なお仕事なのですね(笑)

そうですね。いろいろ研究したいことはあるんですけど、それぞれに関して非常にお金がかかるんです。大学というのは器を貸してくれているだけで、



▲試験管の中で微生物も育てているのだとか。

研究するための予算は何もくれないので、その予算は外部からとってくる必要があって、それがまあ非常に大きな…義務ですよ、私たちの(笑)。



学問について

—一般教養は専門科目にどのように生きてくると思われませんか。

わからないと思います。よく、どういう勉強をしておいたら深海の研究者になれますか、と聞かれるのですが、自分自身が勉強した時というのは、本当に必要に迫られてからなんですよね。特に僕がやっている深海の研究というのは、今はほとんど絶滅しつつある海洋科学で、研究者も少ないんです。しかし深海の研究をやるうえではその知識が必要になってくる。勉強しておいた方がいいことは非常にたく

さんありますが、専門的な勉強は本当に必要になった時にやって初めて身につくものだと思います。なので、そもそも一般教養はどちらかという将来何かのために、というせこいものではなく、総合大学に満ち溢れている知の多様性に浸るためのもの。大学の中にこんなに知識があふれている、すごいところなんや、というのを一般教養から感じてもらえたらいいのではないかと思います。

—お忙しい中お答えいただきありがとうございました。(文責：鈴木結莉子)